

吉良 好雄さん
(寒蘭愛好家)

今年もきれいな花を

細くまっすぐな茎に、控えめな花が5～10輪ほど連なる。寒蘭には、山野の気配を感じさせる凛とした美しさがある。

「毎年、初夏に新芽が出てくるのが楽しみで。青いのから白いのから桃色、いろんな種類があって、それをじーっと見るわけです」。土佐愛蘭会窪川支部の支部長を務める吉良好雄さんが笑顔で話す。栽培歴40年超のベテランだが、「満足いくように育てるのはなかなか難しい」と控えめだ。

27歳の時、自宅がある野地地区の知人に誘われて栽培を始めた。「当時は集落の人がけっこう作ってたんですよ。縁側に鉢を並べてね」。しばらくは個人の趣味として楽しんでたが、土佐愛蘭会に入ってから鉢の数を増やし、展示会にも出品するように。数ある品種の中でも、緑色の花を咲かせる「太湖」がお気に入りだという。

本業は建築士。若い頃は大工としても現場に立ち、今も町内の施設工事に携わる。忙しい日々の合間に鉢をのぞき込み、生育を確かめる。肥料や消毒、植え替え、日光の管理など、栽培のコツを挙げればきりがなが、吉良さんは「水

やりが一番大事」と語る。水が少なれば育たず、多すぎれば根が腐る。気温や土の質に合わせ、夏は3～4日に1回、冬は週に1回ほどと頻度を変える。特に夏場は、水温が上がらないように日が沈んでから水を差す。

新芽の次に花芽が伸び、秋から冬にかけて花が開く。丹精込めて育てた鉢を、窪川支部で毎年開いている展示会に並べる。会場では株の無料配布も行っており、「去年もろうた株が咲いたよ」と声を掛けられるのもうれしいという。

会員の年齢層も上がったが「みんな元気で、一鉢でも多く出してくれたら」と吉良さん。「年がいても続けられる趣味です。目標は、『また今年もきれいな花を咲かすぞ!』と書きちよってください」。



◀ 会員が育てた寒蘭

町にはこんな waza も

テコンドーで鍛錬！ 池田 煌さん(写真右)、宮地 蓮さん 窪川中学校3年

スポーツ武道団体「蹴合術 和蹴会」の須崎道場で、テコンドーの練習に励んできた。動きのかわりが魅力で、「きれいに技が決まった時が楽しい」「メンタルも鍛えられました」と2人。池田さんの得意技は「カウンター」、宮地さんは「上段蹴り」という。

こだわりの「技」できらりと光る四万十町の人々を紹介します。ちよi waza!! は随時募集中! ▶



未来の
waza!!



窪川高校新文化祭

11月22日(土)に開催され、多くの方にご来場いただくことができました。出店事業者様、地域の皆様には多大なるご協力をいただき、心より感謝いたします。四万十町内の高校として、今後も地域を盛り上げられるよう頑張りますので、よろしくお願いします。



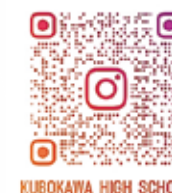
高知県立窪川高等学校

Kochi Prefectural Kubokawa High School

〒786-0012 高知県高岡郡四万十町北琴平町6-1

TEL(0880)22-1215・22-1216

E-mail:320118@ken.pref.kochi.lg.jp



Instagramで新文化祭の準備から開催までの様子を発信しています。ぜひ、ご覧ください。

このコーナーでは、県立窪川高校、県立四万十高校、町営塾「じゆうく。」での生徒たちの活動を月替わりで紹介します。